

# 富山県立大学ニュース

平成29年3月発行  
富山県立大学学生委員会

NO.114

## 第27回 県大祭

「Challenge of the Kendaifes」  
10月29日(土)・10月30日(日)



模擬店



模擬店



ダンスサークル発表

### CONTENTS

- 退職にあたり
- 医薬品工学科の開設について
- News Digest
- OB・OG紹介
- INFORMATION など





## 「遍歴 ー退職にあたり」

知能デザイン工学科 教授 中村 清実

本学に赴任して、ちょうど25年目の節目に定年を迎えることになった。ついに自分の番になったか、現役から卒業することになったかと思うと寂しいような、嬉しいような、あるいはまだまだのような複雑な心境です。本学赴任前については、大学院修士課程を修了後、5年弱は旧日本国有鉄道（現JR）に、その後の約11年余は旧富山医科薬科大（現富大医学部）に在職しました。この間、最後の2年間はご厚意により米国ペンシルバニア州立大学へ留学する機会を得ました。周囲への影響も顧みず転職を3回行い関係の皆様にご面倒をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。今回は定年退職なので、喜んで送り出して頂けてなによりです。本学での25年を振り返ってみました。

1992年（平成4年）4月に本学工学部電子情報工学科に助教授として赴任しました。当時、学科には9講座あり、小生は制御システム工学講座に所属しました。教授には中島恭一先生（元本学学長、現富山国際大学学長）、助手は高木昇先生（現教授）という3人体制でした。両先生には研究室でのゼミや合宿など公私にわたりご指導いただき感謝申し上げます。その後、1999年（平成11年）4月に電子回路講座の教授、2006年（平成18年）4月に工学部の学科改組に伴い知能デザイン工学科知的インタフェース工学講座の教授となりました。また、2003年（平成15年）4月には高野博史先生（現准教授）が助手として赴任し、それ以来、2人3脚で研究室の運営や学生の指導を行ってきました。

赴任当初、脳の空間認識・記憶系の研究に着手しました。米国留学中に開発した頭部が動いてもニューロン活動が記録できる微動電極法を用いて、空間記憶課題中のラットの頭頂連合野ニューロン活動を解析し、空間識別ニューロンや空間記憶ニューロンをJ. Neurophysiology誌に掲載しました。研究室配属学生の卒業研究や修士研究では脳のニューラルネットモデルの研究に着手しました。頭頂連合野に着目した拡散連想型ニューラルネットでは物体の形状と空間（位置、回転、サイズ）情報を同時に認識できました。連合野-内嗅野-海馬系モデルでは初めて見る人の顔の学習や想起を行うことができました。その後、人の目の動きや瞬きをリアルタイムで計測し、ヒューマンインタフェース技術に応用する研究に着手しました。目の動きや瞬きで機器を容易に操作する非接触型目入力装置や障害者支援システム、リアルタイム瞬き計測による居眠り検出・警報システム、虹彩や瞬きなど生体情報を用いた、なりすましに頑健な個人認証（バイオメトリクス）システムの開発研究をこれまで行ってきました。

県立大学では無事25年間勤めることができました。これもひとえに、教職員の皆さまのあたたかいご指導とご支援の賜物です。25年間欠かさず教員と一緒にいった研究室合同の卒業生、修了生の中間発表を兼ねた2泊3日の夏季合宿が懐かしく思い出されます。どうもこれまで、ありがとうございました。最後になりますが、県立大学の今後の益々のご発展と皆さまのご多幸を祈念して、お礼のご挨拶といたします。

## 退職にあたり



## 「プラズマの基礎研究者から 実用化を目指した工学研究者へ」ー退職にあたってー

知能デザイン工学科 准教授 松本 和憲

私は1990年4月に開学した富山県立大学工学部電子情報工学科に助教授として赴任した。研究棟が完成するまでの間、先生方は大部屋と一緒に居たので、皆さんはとても親しかった。また、初代学長の藤井澄二先生の「先生方と事務方が一体となって大学を盛り上げて行く」というお考えもあり、事務局の皆さんともお互いの立場や誇りを尊重し合い大変仲が良かった。

私は、名古屋大学電気系教授会で推薦された三名の一人として本学に赴任した。着任時、当時の主任教授の赤崎勇先生（2014年ノーベル物理学賞）から「良い仕事をして来てくれ」と訓示を受けた。私は前任校で助手として、また名古屋大学プラズマ研究所の共同研究員として、高周波加熱の基礎研究をしていた。本学では初め、電磁解析講座の教授及び助手の先生と一緒に「プラズマの多価イオンの生成」の研究を行った。

開学当時の本学の目標の一つは県内企業へ目に見える形で貢献することであった。その為に特別研究高額予算が計上されていた。私はそれに応募し採択された。大きなブロンズ像が入るチャンバーを特注し、その中にプラズマをマイクロ波で生成した。残念ながら実用化までには至らなかった。その大きな理由は、産業界で利用できる大体積のプラズマ発生法が未だ無かったからである。この問題への取り組みが、その後の私の研究スタイルを変える転機となった。

県工業技術センターの講演会で研究紹介したのが縁で、福井県工業技術センター内の「6相交流アーク放電の開発企業」と関わりを持つこととなった。直流アーク放電より大体積の熱平衡プラズマを作っていた。私はこの方法をグロー放電に適用し、産業界で利用できる低コストで大体積なプラズマ発生法を考案した。この時、基礎研究者の私は特許という知的財産権を初めて知った。

私が特許の重要性を認識したのはアメリカのスタンフォード研究所に留学した時である（1999年10月から1年間）。私は滞在中にプラズマを応用し、通常であれば千度以上加熱する必要がある化学反応を、加温無しで実現した。研究所のセミナーで「研究とは知的生産活動であり、その成果として、その活動に要した人的・経済的費用を上回る生産をする必要がある。生産物は財産権を有する特許である」との講演を聞いた。レーガン大統領の特許戦略である。

この体験が私の研究スタイルを基礎研究・論文化のスタイルから応用研究・特許化のそれに完全に変えた。私はその後の様々な企業との共同研究において、このスタイルを貫いた。そして、本学で初めての国際特許が評価されJSTの大型プロジェクトに採択された。本年2月、そのビジネス向け成果物を、知事が同道したデンソー本社での展示会へ出品した。私は、赤崎先生の訓示「良い仕事をして来い」を自分なりに達成できたと考えている。

本大学では、富山県の主要産業である医薬品産業及び関連産業を支える人材の養成と確保に寄与するため、医薬品工学科（教員12名（予定）、学生定員35名）を設置することになりました。生物工学科（生物工学専攻）での教育研究実績をもとに、工学の観点から、医薬品及び製剤技術の開発、バイオ医薬品の生産、再生医療工学などに特化して取り組みます。「くすりの富山」から世界に発信できる技術者・研究者を育成する独立した全国初の学科となります。

「くすりの富山」という恵まれた環境で、原薬探しから、合成、製剤、製造、パッケージングまで、「医薬品に関することは何でもできる人材の育成」を、学科新設のコンセプトの1つにしています。カリキュラムは、医薬品合成化学、製剤工学、再生医療工学、医薬品材料工学、バイオ医薬工学、薬事関連法規など多岐にわたり、分野や手段には縛りがないので、何にでも挑戦でき、研究のネタが尽きることはありません。発想と行動力次第で、いくらでも面白くできるのが医薬品工学科の特徴です。薬剤師を養成する学科ではなく、4年制の薬学部準じたカリキュラムを持つ「薬づくりを究める学科」と位置づけています。調剤や服薬指導はできませんが、患者さんのニーズを吸い上げて、新薬を開発したり、既存の薬をより多くの人に飲みやすく使いやすくするために成分と形態の両面から改良を加えたりと、製薬に携わる研究・教育を、また、医薬品の分子設計、バイオ医薬品の生産及び再生医療工学に関する教育・研究に取り組みます。

全く新しい学科ですので、何もかも一から作り上げていかななくてはなりません。この4月に入学する新入生の皆さんには、身に付けた知識を総合的に結び付けて、現場で生かせる人材としての役割が期待されています。「見えない患者さん」を思いやることのできる想像力や、いろいろなことにまい進できる行動力や創造力を身につけて下さい。潜在的なニーズをくみ取って、患者さんやお客さんのために薬を改良し続けること、人がやっていないことに取り組むことができる学科に育てていける様、学生さんと教員でいっしょに頑張っていきましょう。在校生や卒業生、保護者の皆様のご支援をよろしくお祈りします。



新 棟

※新しく建設される校舎の完成イメージ図



学生会館



## COC/COC+全国シンポジウム



本学がこれまで取り組んできたCOC事業の成果を全国に発信するとともに、COC及びCOC+の関係者が集まり、地域活性化と大学の役割について考え、相互の連携を深化する場とすることを目的として、9月26日(月)に富山国際会議場にて「COC/COC+全国シンポジウム」を開催しました。基調講演では、北九州市立大学地域創生学群長の眞鍋和博氏に「大学における地域連携・実践型教育の展開～北九州地域活性化の担い手としての学生発見～」と題してご講演いただきました。また、県立大学や富山国際大学等、全国6大学の学生代表による事例発表が行われました。分科会では、「地域の魅力向上」、「持続可能な社会の実現」、「高齢者等福祉の充実」の3テーマに分かれてパネルディスカッションを行い、それぞれの地域課題についての理解を深めました。ポスターセッションでは、全国各地でCOC事業に取り組んでいる15大学が出展し、関係者による活発な意見交換が行われました。

## 富山県機電工業会による特別講義

平成28年後期授業で、昨年度に引き続き、知能デザイン工学科において、一般社団法人富山県機電工業会による特別講義「知能デザイン工学特別講義2」を開講しました。

この講義では、富山県産業の強みであるアルミ、工作機械、金型、電気・電子部品、ソフトウェアの企業の第一線で活躍している技術者等からご講義をいただくとともに、今年度は、新たに工場見学も取り入れていただき、学生は、専門技術と自らの学習内容との結びつきを学びました。

平成28年10月7日(金)の第1回の講義では、富山県機電工業会の 大谷 渡 会長 (YKK(株)副社長) が講師を務め、富山県のものづくりの特徴や強みなど、ものづくりの魅力を学生に伝えていただき、貴重な授業となりました。



## 平成28年度 富山県立大学環境講演会

11月10日(木)、アイザック小杉文化ホール ラポールにおいて、「富山県立大学環境講演会」を開催しました。

この講演会は、環境問題に対する知識や問題意識について学ぶことを目的として、環境分野の専門家をお招きするもので、学内外から幅広く聴講者を募り実施しました。

今年度は、「ネオニコチノイド農薬による生態影響評価～農薬と農業と私たちの生活」という演題で、国立環境研究所 五箇 公一 氏に講演いただきました。

講演会では、近年生態系への影響が強く懸念されるネオニコチノイド系殺虫剤について、国立環境研究所で実施された実験の結果をスライドを用いてわかりやすく説明され、総勢230名が熱心に講演内容に聞き入っていました。

## 高橋高岡市長が本学で特別講義

平成28年11月4日(金)、本学大講義室において、高橋高岡市長による特別講義がありました。今回の高岡市長による特別講義は、2年次生を対象とするトピックゼミの一環として開講しました。

当日は、「未来高岡～夢に挑戦できる街に～」と題し、高橋市長から、高岡市の抱える様々な地域課題の内容やその課題解決に向けた行政の取組み、高岡市と様々な行政機関や大学等との連携、今後の高岡市の将来像などについて説明がありました。

受講した約130名の学生は、自治体トップから直接、高岡市の魅力や自治体行政について聞くことができ、理解が深まりました。



## 第27回 県大祭 開催!! 「ーそして伝説へー」

平成28年10月29日(土)、30日(日)に学生が中心となって行う最も大きなイベント「第27回県大祭」が開催されました。

「ーそして伝説へー」をテーマに、サークルによるステージライブや成果発表、水土里保全研究会による自主栽培の手打ちそばや留学生による中華餃子などのバラエティに富んだ模擬店、ハロウィンの仮装等の様々な催しが行われました。

また、メインステージでは、女装した学生がパフォーマンスを行うクロスドレッサーコンテストや、「ジャルジャル」「レーザーラモン」らによるお笑いライブ等が開催され、大きな賑わいを見せました。

学生はもちろん、地域の方々や子どもたちなど大勢の方にご来場いただき、2日間の日程を無事終えることができました。

## 富山県立大学第15回FD研修会

10月31日(月)、本学において、FD研修会を開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組みのことで、平成14年度から毎年1回開催しており、今回で15回目となりました。

今年度は、国際化の取組みや新教育プログラムの成果報告、COCの取組み等について各教員から発表していただきました。

研修会後行ったアンケートでは、「英語教育」や「COC実施マニュアル作成」などの取組みが参考になったとの意見が多く得られました。



## 富山県立大学秋季公開講座

11月5日(土)、19日(土)、26日(土)の3日間、本学大講義室において秋季公開講座を開催しました。今回は、情報システム工学科の教員等が講師となり、「豊かな人間生活を創造する電子情報システム」をテーマとして講義を行いました。急速に進化し続ける電子・情報システムの技術について、本学教員の教育・研究の成果を広く県民の皆様を知っていただく貴重な機会となりました。県内各地から延べ238名が参加され、皆さん熱心に講義を聴いておられました。

## とやま産学官金交流会2016

県内の企業、大学、研究機関の関係者が一堂に会し交流を深める「とやま産学官金交流会2016」が11月30日(水)に富山国際会議場で開催されました。

今年は「ものづくり富山の未来に向けて」をテーマに基調講演、ポスターセッションなどが行われ、会場は多くの参加者で賑わいました。

「とやまのプロジェクトX」では、女性の視点で見た富山のものづくりをテーマにもものづくりの現場で活躍されている女性経営者3名の取組、成功事例等の紹介を行いました。基調講演では、株式会社小松製作所の 野路 國夫 取締役会長が「コマツのモノづくり」と題して講演しました。また、ポスターセッションには本学から33の出展があり、本学の研究成果について活発な意見交換が行われました。



## 留学生交流会の実施

平成28年11月4日(金)に、昨年に続き2回目となる「留学生交流会」を開催しました。この交流会は、本学の外国人留学生や日本人学生との交流を促進することで、語学力の向上に加え、国際理解を深め知識を広げることを目的としています。

今回はお昼休みの時間を利用し、参加した19名の学生は、日本語・英語・中国語を交えながらお互いの国の文化や趣味について会話を楽しみ、交流を深めました。

事後アンケートでは、「日本人学生と日本語の練習ができる良い機会だった。」「留学生に現地の音楽に関する話が聞けて良かった。」などの感想が寄せられ、積極的な参加の様子が伺えました。



## 第1回 英語スピーチコンテスト

平成28年10月28日(金)、アイザック小杉文化ホール ラポール ひびきホールにおいて、「第1回 富山県立大学学長杯争奪 英語スピーチコンテスト 決勝」が開催されました。このスピーチコンテストは、現在本学で推し進めている英語教育改革の一環として行われ、本学学生が日頃の英語学習で培った成果を発表するひとつの機会となりました。

開会式では、審査委員長の石塚 勝 学長が「第1回の英語スピーチコンテストが行われることを非常に嬉しく思います」と挨拶し、「スピーチコンテストというのは決勝も大事ですが、その前の予選や準決勝、そしてそれらに至るまでにしてきた努力が本当に大事なのです」と述べました。

今回のスピーチコンテストでは、指定された英語の課題文(Martin Luther King, Jr.による「I have a dream」スピーチの一部)を暗唱し発表するというRecitation部門のみが開催されました。

決勝には、予選(学部1年次生258名および学部2~4年次生5名が出場)および準決勝(学部1年次生27名および学部2~4年次生1名が出場)を勝ち抜いた5名の本学工学部1年次生が出場しました。結果は次のとおりです。優勝 工学部生物工学科 桂川 美咲 準優勝 工学部生物工学科 茂住 梨紗 第3位 工学部知能デザイン工学科 LATIEF KRISNA 第4位 工学部生物工学科 松雪 洋恵 審査委員会特別賞 工学部生物工学科 早田 朋代

また、スピーチコンテストの後にはTEAM山崎のメンバーによるアトラクションが行われ、英語の歌(「翼をください」の英語版および「大きな古時計」の原曲である「Grandfather's Clock」)を会場のみなさんと合唱しました。全員で合唱する前には、スピーチコンテストの審査副委員長を務めた射水市国際交流員 クレア エイブルティン氏によるそれぞれの曲の発音指導も行われました。

閉会式では、本学の英語教育改革を担当している大会実行委員長の教養教育 山崎 大介 准教授が「みなさんが一生懸命に練習をされて、まさにキング牧師になりきって熱い思いを語ってくれました」と述べるとともに、「皆様によるご協力等のおかげで、本日無事にスピーチコンテストを終えることが出来、改めまして厚く御礼を申し上げます」と挨拶しました。

なお、第2回の英語スピーチコンテストは平成29年10月27日(金)の午後開催の予定です。

## 大谷米太郎記念基金事業による大学院修学奨学金の支給について

大谷米太郎記念基金により昨年度から実施している大学院修学奨学金について、去る1月19日に28年度支給決定通知式が行われ、5名の大学院生に、寺井理事長から支給通知書が交付されました。

大谷米太郎記念基金は、本学の前身の県立大谷技術短期大学の開学に多大な貢献をされ、郷土愛の念の熱かった本県出身の実業家の大谷米太郎翁が出損・設立された財団(現在解散)の残余資産をもととした基金です。翁(故人)やご子孫の願いを踏まえ、優秀な人材を育成するための学生支援事業として、本学を優秀な成績で卒業し、本学大学院博士前期課程に進学した1年次生を対象に、年間授業料の半額に相当する奨学金を支給しています。

今回、奨学金を受けられた皆さんには、学生の模範として一層勉学に励まれ、将来、優秀な研究者や技術者として活躍されることを期待します。

本学としても、学生の皆さんの励みとなるよう、今後とも本事業による支援を続けてまいります。



## 平成28年度後期 地域協働授業成果発表会

「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」の取り組みとして実施している「地域協働授業」での成果を広く知っていただくため、2月2日(木)、3日(金)に本学にて「地域協働授業成果発表会」を開催しました。2年生のトピックゼミ、3年生の専門ゼミを中心に計22グループが発表し、学生、教員、地域関係者等約280名が参加しました。ICT技術を利用して中学校・高校の英語の授業支援を行う取り組みや、学生団体が主体となって小矢部市の観光促進に取り組むプロジェクトについての発表が行われました。実際の授業でご協力いただいた地域関係者の方から質問やコメントをいただく場面もあり、授業を通じて学修したことや地域の様々な課題などを全体で共有するよい機会となりました。

## 本学教員等の受賞について

### 環境工学科 坂本 正樹 講師

日本環境毒性学会 CERI(一般財団法人化学物質評価研究機構)学会賞 H28.9.7受賞

「食物網を考慮した化学物質の生態影響評価」

<研究の概要等>

化学物質による野外生物群集への影響を評価するためには、種レベルの毒性試験で考慮されていない複雑な生物間の相互作用(競争や捕食-被食など)と群集構造を把握し、群集全体がどのような応答を見せるのかを明らかにする必要があります。そのためには、生態学をベースとしながらも毒性学的手法を用いた研究を行う必要があります。これまでに実施してきた個体・個体群・群集レベルでの実験的解析や、野外生態系調査に基づく生態影響評価についての一連の学術論文が認められ、このような賞をいただきました。



## 本学学生等の受賞について

受賞者	学科等	学会賞名	受賞年月	指導教員
小牧 泰斗	情報システム工学専攻博士前期課程2年	平成28年 電気学会 電子・情報・システム部門大会 優秀ポスター賞	2016年9月	准教授 榊原 一紀
山室 晴樹	知能デザイン工学科3年	平成28年度富山県福祉用具アイデアコンクール 一般の部 アイディア部門 入賞	2016年10月	教授 大島 徹
蟻崎 雅佳 八尾 基寛	知能デザイン工学科4年	平成28年度富山県福祉用具アイデアコンクール 一般の部 アイディア部門 入賞	2016年10月	教授 大島 徹
綿見 和樹	知能デザイン工学科4年	平成28年度富山県福祉用具アイデアコンクール 一般の部 アイディア部門 入賞	2016年10月	教授 大島 徹 准教授 小柳 健一
清水 貴昭	機械システム工学専攻博士前期課程2年	オープンCAEシンポジウム2016 最優秀学生講演賞	2016年11月	教授 中川 慎二
澤 侑希	知能デザイン工学科4年	2016年度精密工学会北陸信越支部学術講演会 ベストプレゼンテーション賞	2016年11月	教授 神谷 和秀
坂井 篤司	情報システム工学専攻博士前期課程2年	第26回インテリジェント・システム・シンポジウム 優秀論文賞	2016年11月	准教授 榊原 一紀
寺崎 桃香	生物工学専攻博士前期課程1年	第9回 北陸合同バイオシンポジウム 最優秀発表賞	2016年11月	教授 西田 洋巳
高平 梨可	生物工学専攻博士前期課程2年	第21回日本フードファクター学会学術集会 Young Investigating Award (若手研究者優秀発表賞)	2016年11月	教授 神 利之 准教授 生城 真一
牧野 公博	知能デザイン工学専攻博士前期課程1年	ものづくり in とやま 最優秀賞	2017年2月	教授 神谷 和秀
山口 大輔	知能デザイン工学専攻博士前期課程1年	ものづくり in とやま 最優秀賞	2017年2月	教授 神谷 和秀
古川 昌樹	情報システム工学科4年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 優秀学生賞	2017年2月	准教授 石坂 圭吾
青木 康祐	知能デザイン工学専攻博士前期課程2年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	講師 中井 満
安宅 祐香	情報システム工学専攻博士前期課程2年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	准教授 石坂 圭吾
陶山 真昌	知能デザイン工学専攻博士前期課程2年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	准教授 高野 博史
高野 梓	知能デザイン工学専攻博士前期課程2年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	准教授 高野 博史
田開 孝祐	情報システム工学専攻博士前期課程2年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	准教授 石坂 圭吾
森田 悠生	知能デザイン工学専攻博士前期課程2年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	准教授 高野 博史
吉田 智彦	情報システム工学専攻博士前期課程2年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	准教授 中田 崇行
田中 緑	知能デザイン工学専攻博士前期課程1年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	講師 中井 満
服部 史空	情報システム工学専攻博士前期課程1年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	教授 松田 敏弘
森 隆晴	情報システム工学専攻博士前期課程1年	2016年度 電子情報通信学会 北陸支部 学生優秀論文発表賞	2017年2月	講師 中村 正樹

## OB・OG 紹介

### 有用きのこの人工栽培化を目指して

近畿大学農学部 応用生命化学科 講師 福田 泰久

(平成21年3月 富山県立大学大学院工学研究科  
博士後期課程 生物工学専攻 修了)

私は、短期大学部生物資源専攻科の2年間、工学部生物工学専攻博士前期課程の2年間、博士後期課程の3年間、さらに、実験補助員また嘱託研究員としての2年間、合計9年間という長い期間を富山県立大学で過ごさせていただきました。

在学中は、生物資源専攻科では植物ホルモンに関する研究、生物工学専攻では微生物や植物の酵素を用いた有用物質の生産に関わる研究をしていました。非常に中身の濃い9年間であり、私の現在の人格や仕事に対する姿勢などはこの期間に形成されたと思います。特に大学院時代において、研究活動が社会に与える影響、またその楽しさを学びました。「有機合成では困難な化学反応を酵素という生体触媒を利用することで成功させ、有用物質を温和な条件で生産する」という研究テーマは、モノづくりの県である富山県に非常にマッチしており、実験させていただくことを、誇らしく思っていました。

現在は、近畿大学農学部応用生命化学科で講師をさせていただいております。私の念願でありました大学の教員という仕事をさせていただきます。近畿大学は日本でも有数のマンモス校であり、平成28年現在では5万人を超える学生が在籍しております。今年度、所属する応用生命化学科1年生の担任を務めておりますが、160名近くの学生が在籍するため、毎日あらゆる対応に追われる日々を送っております。学生時代には思いもなかった大学の教職員の皆様の御苦勞を、身をもって実感し、あらゆるものを与えられてきたことへ感謝するばかりでございます。

所属している食品微生物工学研究室は、農学部発足時からの歴史ある研究室で、「きのこ」の研究を伝統的に行っています。普段我々がスーパーなどで見かけるきのこは、人工栽培されたものがほとんどで、その技術は、大学と企業が長年行ってきた研究の成果でございます。きのこは難培養微生物といわれており、どんなものでも実験室で培養が可能というわけではありません。我々の研究室では、そのような未だ人工栽培が成功していない有用食用きのこの人工栽培化を目指しております。中でも、日本で最も人工栽培化が求められているマツタケの人工栽培化に力を入れております。本研究テーマは、平成27年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業のプロジェクトの1つに採用されました。現在、その研究グループの1員として研究に取り組んでおります。

近畿大学農学部に就職してから早6年が経ちました。教員という立場で学生の皆様と接しておりますと、あたりまえなことであるかもしれませんが、何事も「根気強さ」が重要であると思います。富山県という豪雪地で養われた粘り強さをもって、目の前の課題にしつこく取り組んでください。社会で活躍している将来の自分の姿をイメージし、またその姿を恩師の前で堂々と見せることを想像して、日々の大学生活を送ってください。



マツタケ培養菌糸体

## 富山県立大学県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)

### ～平成29年度前期受講生募集～

本学では、地域の皆様に正規の授業を公開する県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）を実施しています。

4月から開始する前期授業においても、教養教育科目、機械・電子系専門科目、環境工学やバイオテクノロジーに関する専門科目など約80科目のバラエティに富んだ授業を公開します。

公開科目の中からニーズにあった講義を選んでいただくため、実際の授業を試聴いただいた上で受講科目を決定することができます。皆様のお申込みをお待ちしています。

#### 開講予定科目

**一般教養科目から各種専門科目まで、バラエティに富んだ授業を公開します！**

##### 一般教養科目

社会学Ⅰ、心理学Ⅰ、数学Ⅰなど

##### 工学部専門科目（機械、知能、電子・情報、環境・社会基盤、生物、医薬品）

材料科学工学、ロボット工学概論、電子回路、環境材料学、食品生理学など

#### スケジュール

募集期間 平成29年3月16日(木)～3月30日(木)

試聴期間 平成29年4月10日(月)～4月21日(金)

授業期間 平成29年4月10日(月)～8月10日(木)

#### 受講料

1科目5,000円（複数科目の受講可） ※研究協力会会員は半額助成あり。

#### 申込方法

「受講希望調書」を地域連携センター受講生窓口に持参、郵送、FAX又は電子メールでお申込みください。受講希望調書、科目、スケジュール等はホームページに掲載します。詳しくは下記大学ホームページにてご確認ください。（3月中旬掲載予定）

##### ○募集要項請求先・問合せ先

富山県立大学地域連携センター（受講生窓口）

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL：0766-56-0604 FAX：0766-56-0391

E-mail：openuniv@pu-toyama.ac.jp

URL：http://www.pu-toyama.ac.jp/local/shougai/

## 学位記授与式

平成28年度の学位記授与式をアイザック小杉文化ホールラポールにて執り行います。また、授与式後、本学大谷講堂にて後援会及び卒業生一同による「卒業記念・謝恩パーティー」を行います。

#### 【授与式】

◆日時：平成29年3月18日(土) 午前10時～

◆会場：アイザック小杉文化ホール ラポール（射水市戸破1500番地）

#### 【卒業記念・謝恩パーティー】

◆日時：平成29年3月18日(土) 午後0時30分(予定)～

◆会場：本学大谷講堂

# SCHEDULE 平成28~29年度

	大 学 院	工 学 部
2/28(火)~3/1(水) スキー講習会 2(木)、3(金) 学内合同企業説明会 18(土) 学位記授与式	3月	8(水) 一般入試(前期日程) 合格発表 22(水) 一般入試(後期日程) 合格発表
6(木) 入学式	5(水)~7(金) オリエンテーション 7(金) 学生定期健康診断	5(水)~7(金) 学生定期健康診断
26(金) 学生球技大会 30(火) 研究協力会総会	5月	10(月) 前期授業開始

## CAMPUS NOTE

### 軟式野球部



軟式野球部は、毎週木曜日の授業後と土曜日の午前中にサブグラウンドで練習しています。部員は20人と少ない人数で活動しています。部活だけの交流ではなく、飲み会やBBQ、スノーボードといった、季節ごとに行事を行い、1年を通して楽しく活動しています。

皆さんは野球部と聞いてどのようなイメージを持つでしょうか？規律が厳しいや上下関係が厳しい、練習が厳しいなど、とにかく厳しいイメージを持っている人が多いと思います。しかし、僕たちの野球部はそんなことはありません。「楽しく仲良く」をモットーに活動しているため、誰でも馴染みやすい雰囲気です。それだけでは、大会では勝てないのでは？と思う人も多いと思います。しかし、安心してください。僕たちは西日本軟式野球選手権大会という大きな大会に2年連続出場しており、実績もちゃんとあります。

野球は楽しくプレーすることが1番であると思います。是非一緒に、楽しく仲良く野球をやりましょう！

(部長 知能デザイン工学科3年 黒柳侑大)

### 編集後記

週末の早朝に大阪まで、その昔勤務した日本国有鉄道(現JR)の40周年同期会に新高岡から北陸新幹線のつるぎ、そして金沢からはJR在来北陸線のサンダーバード号に乗り継いで出かけた。新高岡駅には立体駐車場を含め約800台分の駐車場が広々と整備されているが、週末や休日にはあっという間に満車となってしまうので、はらはらものである。空車情報はインターネットでリアルタイムに確認できるようになっている。もし、新高岡駅に駐車できない場合は、約1.5km離れた旧高岡駅の立体駐車場(約750台分)に駐車して、シャトルバス、あるいは、城端線で新高岡駅まで行くことになる。このため、朝一にまず空車情報をインターネットで確認し、時間的余裕をもって出かけた。案の定、新高岡駅の駐車場はほとんど満車状態、立体駐車場の最上階まで行って、ようやく駐車できた。

新高岡駅から金沢までは新幹線でわずか13~14分であっという間。乗り心地は抜群、揺れがほとんどない。さて、金沢からは在来のサンダーバード号に乗り継ぐ。乗り心地は雲泥の差、なんという横揺れ、立って通路を歩くと両側の座席に接触せずには歩けない程である。早く新幹線が大阪まで繋がるといいのにとっても、まだまだ十数年以上は先の話。

いよいよ40周年同期会の開始。7割方の同期が集まったが、皆さんそれぞれお頭の毛の具合が大幅に変わって、始まって間もない頃はだれがだれか定かでない状態。徐々に酔いが回ってくるにつれて、昔の記憶がよみがえってくるのは摩訶不思議。就職で本学卒業生も何人かお世話になっているので、お礼は忘れないようにした。同期会はこれまで5年ごとの開催だったが、歳のせい、今回は3年後に開催しましょうと固い約束をして散会した次第。

散会后、大阪駅周辺を歩いた。周辺には大型ビルが立ち並び、かつて勤務した頃の面影はほとんど見当たらない。まるで生まれ変わったかのような景観。まさに、「ゆく川の流れば絶えずしてしかも、もとの水にあらず」である。目下本学では、仮設&新設工事が学科新設、学科拡充そして新学部創設のために急ピッチで進められている。これまで余裕のあったキャンパス内駐車場のスペースも所狭しとばかり、車で混雑している。これも、生みの苦しみ、ここ1~2年は致し方ないかといった所である。本学も3年後には、9階建て(予定)の新ビルや新学生会館が立ち並び、そうそうたる景観に様変わりすることであろう。

(学生部長 中村 清実)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。